



30 褥瘡発生率

解説	入院後に褥瘡(床ずれ)が新規発生することで,患者のQOL(生活の質)の低下をきたし,結果的に入院期間の長期化や医療費の増大を招きます。これは,適切な診療により予防できる疾患です。国立大学附属病院における褥瘡の発生率は低く,適切な取り組みが行われていることが示唆されます。知識の蓄積,予防の計画,予防の実施にかかる総合力を評価する指標です。												
実績	<table><thead><tr><th>年度</th><th>褥瘡発生率 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>平成25年度</td><td>1.00</td></tr><tr><td>平成26年度</td><td>0.76</td></tr><tr><td>平成27年度</td><td>0.86</td></tr><tr><td>平成28年度</td><td>0.79</td></tr><tr><td>平成29年度</td><td>0.84</td></tr></tbody></table>	年度	褥瘡発生率 (%)	平成25年度	1.00	平成26年度	0.76	平成27年度	0.86	平成28年度	0.79	平成29年度	0.84
年度	褥瘡発生率 (%)												
平成25年度	1.00												
平成26年度	0.76												
平成27年度	0.86												
平成28年度	0.79												
平成29年度	0.84												
定義	1年あたりの褥瘡発生率(入院してから新しく褥瘡が発症した患者数の比率)です。												